

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑨子どもの遊びの理解と支援

- ◆ 子どもの「遊び」について学びました。児童クラブで働きながら、日々子どもたちとコミュニケーションを取る中で、気を付けるべきこと、心掛けるべきことはたくさんあることに気付きました。コミュニケーション能力が低下する中で、どれだけ子どもたちに関わっていけるか、気付けるか、見ることができるか、共感していけるかを常に考えていきたいと思います。
- ◆ 子どもが主体的に遊ぶことで好奇心や自己肯定感などの非認知能力が身についていくことを学んだ。子どもは生活の中での「遊び」から様々なものを得て、それを成長とともに発達させていくことができる。遊びと学びは一体的なものであり、児童クラブが子どもたちにとっての育ちの場となるよう、私たち支援員が見守っていくことが重要だ。しかし、見守るだけではなく、共に笑い、子どもの側に立って関わり続ける支援員でありたい。
- ◆ 子どもは遊びを通して成功や失敗の経験を積み重ねていくことが重要であり、成功は達成感があっての喜びがあり、失敗は悲しく嫌な思いから落ち込みはありますが「どこが駄目だったのか？今度は」という見直しをし、再度挑戦しようとするということで学びが多いと思います。ごちなくすんなりといかないことの方が多いと思いますが、子どもと一緒に遊び、援助し、子どもの遊びから共に学んでいけたらと思いました。
- ◆ 現在は、スマホ、テレビゲーム、ユーチューブなど一人でも楽しめることが多い。遊びは幼児期だけではなく、児童にとっても大切なことである。遊びの中から人との関わりや社会のルール、思いやりの気持ちなど、成長するうえで大切なことを自然に学ぶことができる。今は親世代もスマホ中心となりつつある。子どもだけではなく、保護者へも遊びの大切さを伝えていく必要があるのではないだろうかと考えさせられた。
- ◆ 現代の子どもたちは核家族化、少子化、携帯電話やインターネットの普及など、環境の影響で体力の低下や生活リズムの異常、免疫系の異常や生活習慣病など、子どもたちの遊びや育ちに変化が出てきていることを学びました。子どもの遊びにおいて成功体験も大切だが、失敗体験はさらに大切だということを学び、児童支援員として子どもの側に立って関わり、心や言葉の動きから変化に気付けるようになりたいと思いました。